

02.『泉の中でエルフさんに尻コキされながら...』

【とある深い森の中で...】

ふふ...エルフという種族のこのようなふるまい、やはり意外に思われますか？
無理ありません...

古くからわれわれ一族は、外界との関わりを断って、生きてきましたから。
世の表舞台からは姿を消して、今はとぎばなしに残るばかり...

旅人様は、どうしてこの森にいらっしゃったのですか？

...そうでしたか。迷い込まれて、偶然に...

ふふ、おそらくはそうであろうと、思っておりました。

ここは別名、帰らずの森。

あえて訪れようとする方など、めったにいるものではありませんから。

...旅人様。わたくしは...

...ふふ。いいえ。

どうぞ手を、お取りになって...？

泉の真ん中まで、歩きましょうか。

大丈夫。この泉は、わたくしの腰までしかありませんから。

ゆっくりと、そう...

右足、左足...

右足、左足...

【二人が泉を歩く水音】

くっふふ...水草が足の裏を撫でて、少しくすぐったいですね。

冷たくって、心地いい...

歩くたびにみなもが揺れて、朝の優しいこもれびが、キラキラと反射して。

すうー...はあー...。水の、いい匂い...

...ふふ。

お気に召しましたか？わたくしの、髪の毛の匂い。

よろしいですよ...？

わたくしの髪にお鼻をうずめて、そのままゆっくりと深呼吸なさって。

さあ、どうぞ...吸って...吐いて...

森の匂い...クチナシの匂い？女の子の香り...でございますか？

えへへ...そのようなことを言っていたいたのは、わたくし初めてです。

うれしい...

【腹がごぼ、と鳴るかすかな音】

んっ...やだ。水の冷たさにつかれて、どうやら降りてきたようです...

いきますね...？

ん...

【水のなかでそっとおならをする音】（03分22秒～）

ふー...

えへへ、水の中でしてしまいました。

すん、すん...

やっぱり、くさいですよ？えへへ...

...くさくて、いい匂い...でございますか？

ふふっ...変わったお方。

幸せそうにクンクンなさって...本当に、好きなのですね？

女の子のこういう、恥ずかしい匂いが...

ふふ、いいえ。受け入れていただけて、うれしい。

正直、不安だったのです。

初めての儀式を...巫女としての役目を、自分にちゃんとこなせるかどうか。

気に入っていただけて、本当によかった...

旅人様...どうぞ、わたくしの尻に、そそり立つものをあてがって...？

その熱くて、硬いもの...わたくしが包みこんでさしあげます。

ふふ、そう...それじゃあゆっくりと、動かしますね...？

すり...すり...

すり...すり...

ふふっ...やわらかいですか？心地よいですか？

わたくしも、あなた様のお鼻が、頭をちゃんと押してくる感触...
ちょっとくすぐったいけれど、暖かくて、心地よいですよ...。
んっ...。

[水のなかでごぼ、おならをする音] (05 分 45 秒～)

ふー...。
ふふ...あそこがぴくんってしましたね...？
感じますか...？
ぴったりとあてがった裏のすじを、熱い気泡がなでてゆくのを。
んっ...。

[水のなかでごぼり、とおならをする音] (06 分 09 秒～)

んふ...。
ふふっ。けれどこれでは...匂いが混ざってしまいますね...？
わたくしの髪から香る匂いと、わたくしの放ったマナの匂い...。
二つの香りが混ざり合って...旅人様のお胸を満たしてゆく...。
すう...はあ...。
旅人様、幸せそうな息づかい...。
吸って...吐いて...。
あなた様のお力になれること、心より幸せに思います...。
旅人様？
いかがなさいましたか...？
...わたくしに、遠慮なさる必要などございません。
どこかお体が...痛むのですね？
...その、胸元の傷でございませぬ...？
大丈夫ですよ...どうかわたくしに、お任せください。
すん、すん...。
傷が、熱い...。
どうか大きく、深呼吸なさって...。
そう、ゆっくりと息を落ち着けて...。
ん...ちゅ...れろ...。
ふふっ...心地よいですか...？
いましばらく、ご辛抱なさってください...。
ちゅっ...んむ...。
森を育む母なる力よ、自由なる風の精霊よ。
わが息吹につどい、邪悪なる力をそそぎたまえ...。
ふ-----...。
...いかがですか？まだ、痛みますか？
...そうですか、よかった...。
お体が戻って、血がめぐり始めたことで、傷口が痛んだのでしょう。
...その傷は、魔の傷。
二日前、あなた様が魔物と戦い、その牙にうがたれたところ。
そこから毒が入り込んで、全身を侵していたのです。
...ふふ、いいえ。感謝していただくようなことではございません。
むしろ、お礼申し上げるのは、わたくしのほう...。
...少し、浅いほうへゆきましようか。
あまり、お体が冷えてもいけませんから。
どうぞわたくしの手を取って。足元に、お氣をつけて...。

[二人が泉を歩く水音]